

『助け合いとは』

桜谷小学校 6年 大道 喜隼

ぼくには苦手なことがあります。ぼくは、体を上手く使うことが苦手です。それを知ったのは2年生の時です。体の使い方が不器用だと自覚してからも大変なことはあるけれど、ぼくはあまり困ったと思うことはありません。なぜなら、周りに助けてくれる人がいるからです。ぼくが一番苦手なことは手先を使うことです。ひも結びは難しいものの一つです。桜谷小学校では運動会の時、頭にはちまきを巻きます。みんなは後ろで上手にちょう結びをしているけれど、ぼくがすると絶対に落ちてきます。出番までに結ばないといけない時はあせってしまって、かた結びさえできません。先生は「練習してね。」と言つけれど、毎年大変な思いをしています。でも、ぼくには助けてくれる人がいます。ある人はイスにはちまきを結んで、休み時間に結び方を教えてくれました。練習して結べるようになつても、形が変になる時があります。そんな時は見かけた友だちが後ろから形を整えてくれました。ぼくも時間が無くて結べない時は素直に「ごめん、結んでくれない。」とお願ひします。友だちは「いいよ。」と言って結んでくれます。誰にも「何でできないの。」とか「自分でしなよ。」と言われたことはありません。

6年生になってから、陸上教室に通い始めました。ぼくは、走ることが得意ではありません。体験会に行った時、やってみたいと思ったけど、まだ迷っていたら、友だちが「走るのは一人だから速くてもおそくてもいいと思うよ。一緒に走ろう。」と言ってくれました。ぼくは、この言葉で勇気が出たし、悩んでいたので助かりました。この経験から、行動するだけではなく、声をかけることでも助けることができるんだと思いました。ぼくはたくさん助けてもらっているので、ぼくが助けていることを思い出してみようしましたが、よく思い出せません。ぼくは助けてもらっているばかりなのかと、家族に聞いてみました。すると、「助けてあげたことは覚えてない方がいいよ。」と言われました。助けてあげたことを覚えていると、「あの時は、こんなことをしてあげたのに。」と言う気持ちになるからだそうです。確かにそんな気持ちになるなら、助けたことにならないと思います。

桜谷小学校では「ポジポジさん」の取組があります。「ポジポジさん」は、人のいいところを紙に書いて紹介していくものです。ぼくも低学年の子から「困っている時に優しく助けてくれた。」と書いてもらったことがあります。ぼくにとっては声をかけただけで、助けたと思っていなかつたので、「こんなことでも助けになったんだ、うれしいな。」と思いました。知らないうちに誰かの助けになったり、誰かから助けられたりしているんだと感じました。

ぼくにはたくさん苦手なことがあって大変だけど、それ以上に楽しく生活できているのは『だれとでも たよりたよられ 助け合い』があるからだと思います。普段このひのっ子宣言を考えながら行動しているわけではありません。なぜなら『たよりたよられ』は人の優しさや相手を思う気持ちで普通におこなわれていることだと思うからです。ぼくの不器用さも個性です。ぼくだけではなく、みんなそれぞれ得意、不得意があります。全部を完璧にできる人はいないから、できないことがあっても恥ずかしくはありません。「お願い。」「いいよ。」「ありがとう。」と、周りの力

を借りるとできることがあります。助け合うことは、当たり前のことです。お互い様だから「全然いいよ。」と言える人たちがたくさん周りにいることは素晴らしいと思います。ぼくは、助けもらったことを忘れないで、困っている人がいたら自分から手を貸してあげたいです。ぼくができることは小さいかもしれません、小さな力が集まれば大きな力となって助けることができます。そして助け合いの輪をつなげていきたいです。